

こころの便り

第212号

平成29年11月

〒679-1434
兵庫県たつの市新宮町大屋六六ハ一十二
株式会社新宮運送グループ
代表/木南 一志
kiminami@shingu.co.jp
電話0791-755-1212

謙虚になる

巨大化した台風が日本列島を駆け抜けて、雨風とともに北海道では雪の台風となり、自然の力に人間が及ばないことを実証しているかのよう感じさせられます。人工知能を駆使して自然を自由に動かす時代が来るのだろうか、月の宇宙基地のニュースを見ていると、ここまでやってもいいのだろうかと思ろしく思う未来開発の時代となりました。

総選挙は自民党、公明党の与党圧勝で民意が決を下しました。憲法改正に向けての論議が始まっていくことでしょう。噂話のマスコミに振り回されることなく、自ら学んで意見を持つことが大切です。せめて、孫の時代に生きる人々から批判のネタにならないように真剣に考えていきたいものです。政治家にすべてをゆだねるのではなく、国民投票というかつてない意思表示を今回の選挙のように示していきたいものです。

早速、政府は謙虚に運営していくことを表明したようですが、謙虚になるためには「自分を修めること」が大切なのです。戦前教育はすべて悪いように教えられてきましたが、自分の身を修めるという「修身」というものは、責任を人になすりつける教えではありません。そして、自らを修めることが周りの人を安心させることにつながるのです。それはどうということかと、小さなことに一喜一憂しなくなるということです。たとえ

ば、車で割りこまれたら、以前ならカチンと来て周りの車に当たり散らすような運転をしていた自分が、「危ない奴には近づきまい」とゆっくり走るこ

とができるようになるようなものです。謙虚になるといふことと譲ってばかりで卑屈になることは、同じことではありません。自分の身を修めていくことで確固たる信念が生まれてくるようになります。何のために譲るのかという理由がハッキリとするといいことでもあります。そして、本物が見えてくるようになります。口先だけの人か実行を重ねている人なのかということが分かるようになるのです。

何故、そうなるのか。それは、実践を重ねることこそ、身を修めることであるからなのです。口に出したことを必ず実行していく。立派な日本人は、そのような実践からつくられてきたのです。これからの十年間が大きな時代の変わり目となることと私は考えています。何が大切で、何を実行しなくてはならないのかを見極めていく眼を養い、立派な先人がいてくれたおかげで歴史ある日本の国が守られてきたと言ってもらえるような行動をしてみよう。

被災地にこころを寄せながら

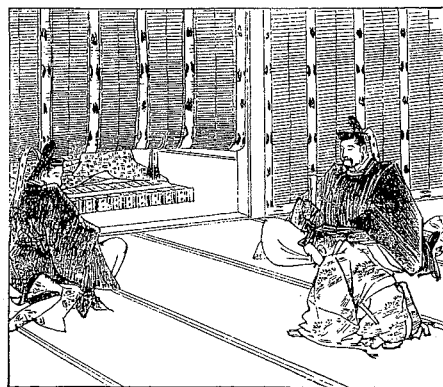
木南 一志 拜

NPO法人 愛ランド様の協力で障害を持つ方々の力で、皆様にお届けさせていただいております。

尋常小學校修身書 卷五 兒童用

第三課 忠義（前号のつづき）

正成は河内へ歸つて赤坂城をきづき、僅か五百ばかりの兵で、まつ先に勤王の旗をあげました。さうして天皇をお迎へ申し上げようとしてゐるうちに、賊軍は笠置を攻落し、更に赤坂城におしよせて來



ました。正成は度度それを打破つたが、兵糧がつかないので、城を焼いて、身をかくしました。間もなく、金剛山に千早城をかまえて、千人足らずの兵で立てこもり、おしよせて來た賊の大軍をさんぐに苦しめました。その間に正成の旗あげを聞いて、お味方申し上げる者が次第に多くなつて、高時はとうとう打滅されました。

天皇が隠岐から京都へおかへりになる時、正成は兵を引きつれて兵庫までお出迎へ申し上げました。天皇は正成を御側近くお召しになつて、その忠義をおほめになりました。正成は、「強敵を破ることが出来ましたのは、全く陛下の御徳によることと存じます。」とお答へ申しました。それから天皇は正成に前驅をさせて、めでたく京都へおかへりになりました。